

京橋の印刷

12月10日 1988・No.72

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855

発行人
大竹次郎



一寸一言 支部長 大竹次郎

本年もいよいよ師走月を迎え、ご多忙の事と存じます。例年ですと得意先からの年末年始用の印刷物で忙しい時期ですが今年も、世間の自粛ムードでその対応策にご苦勞なさっている組合員も多いと思われます。

本号は、京橋・銀座地区の方々の記事特集をお願いしました。ご存知の通り銀座地区、特に旧名、木挽町は東京の印刷発祥の地、関東大震災後七十五年、今では印刷工場を探すのに苦勞する地域になりました。又京橋地区は東京の表玄関、東京駅八重洲口前で印刷工場とは縁のない地域になりました。この地区でたくましく営業活動をしている組合員に敬意を表します。

さて、本年度中央区工団連主催中央区印刷工業展が10月20日～23日に開催されました。多くの組合員の方々から賛助金のご協力を戴き、当組合からは参加負担金50万円、協賛金57万円計107万円也を拠出しました。工業展の会場展示場内容等についてはご覧になった組合員各位のご判断におまかせしますが、期間中ご多忙のところ、会場にお出向きいただいた方々には厚く御礼申し上げます。又今回の工業展の開催に当り日本印刷新聞社の協賛広告をご掲載いただきました各位にも厚く御礼申し上げます。

工団連も永い歴史の中にも今日迄継続運営されて参りましたが、昨今の中央区の状況等を見ますと、発足当初とは社会地域経済等の諸現況は著しく変化しており、役所におきましてもその対策に苦慮している様ですが、工場環境の変化と、高度情報産業へと脱皮するのに合せて、主要地場産業である印刷関連産業を育成する施策が今必要ではないでしょうか。

中央区工業文化展 “わが街いま・あした” テーマに開催

10月20～23日
於・月島社会教育会館



隔年秋に恒例となった第5回中央区工業文化展が今年4月に新築された5階建ての月島社会教育会館の4階ホールで、10月20日から3日間開催されました。当日は9時45分から中央区長矢田美英氏、中央区工団連会長児玉正己氏によるテープカットが行われて、来賓約100名の方々がホール内に設けられた各コーナーを巡って展示物を観賞しました。

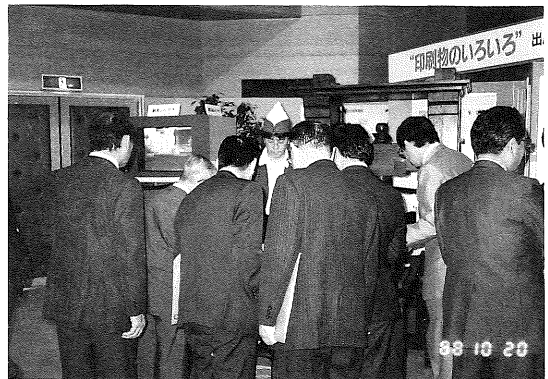
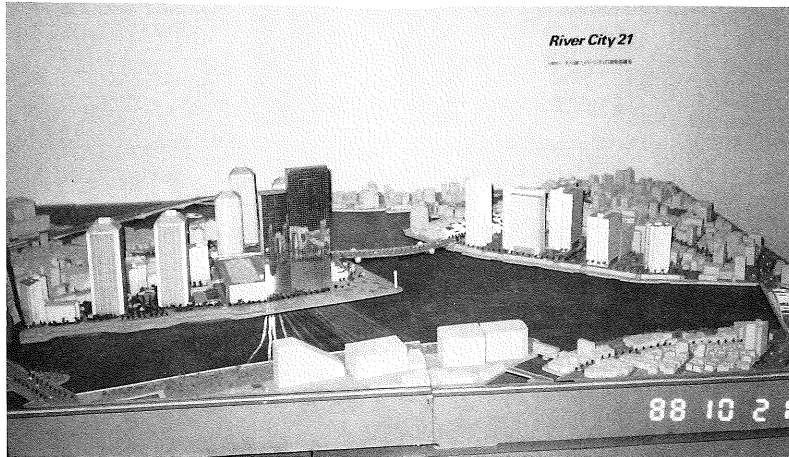
印刷のコーナーでは、未来の印刷物、ホログラム、特殊印刷、全印工連印刷作品コンクール入賞作品、印刷についてのパネル等を展示、又昔の印刷物として(株)ミズノプリテックから特別出品されたグーテンベルグ42行聖書復刻版、豆本日本最古の印刷物として有名な陀羅尼経を印

刷した和紙を収めている百万塔、エジプトのパピルス等々貴重な資料も出品されて参観者の目を楽しませてくれました。



又実演コーナーでは、(株)日本印刷新聞社から急に出展された、グーテンベルグ活版印刷機(複製)を使って往時の印刷作業を実演して見学者に喜ばれていました。印刷と並んで中央区の主な地場産業である製本コーナーでは、だれでも簡単にできる「和本」の作り方を教えて自分で作ったのを差し上げたり、ミニ箔押実験では、私製ハガキに年賀用絵柄を箔押しして差上げたりして人気を博していました。このほか印刷・製本共、各種ビデオを放映して地場産業としての最新のプロセスをPRしていました。

このほかには人気の展示物として、大川端リバーシティ'21開発協議会より出展された大川端に展示され、又新しく東京駅から伸びるリバーシティ橋も架けられており、大川を取り囲んで林立する超高層ビル群と共に、中央区の将来を表わしたもので、皆興味深く見ていました。初日から開会と同時に中央区内の小学校高学年の生徒を中心に、入れ替わりバスで乗りつけて順次に歓声をあげながら見学したり、中央に4台のワープロを据え付けられたワープロ教室(日本電気オフィスシステム(株))に群がって、順番を待つ程の人気でした。朝日新聞社のコーナー





ではビデオやパネルで、最新の新聞編集・印刷システムである「ネルソン」の説明をし、大刷り、ネガフィルム、刷版、紙面等も展示されました、この他朝日新聞社からは下敷、双六、定規等の学童へのおみやげも配られて、学校からの見学後、帰宅してから再び来場して貰いに来る子供もいて人気を集めていました。東印工組編集の小冊子「印刷のメディア」も3千冊配って印刷業の新技术をPRしました。

入場者数は3日間で約七千人で、内小学生が

千二百人と前回のデパート等での開催より人数は少なかったものの、月島、佃地区の地元住民の方々が来場して、地元民のための展示、催しとして大いに成果のあった工業文化展でした。

初日は開会式に続き、別室でパーティーが行われて、矢田区長は「工業文化展は、テーマわが街、いま・あした」のとおり地場産業の将来展望を提示し、発展を図ろうと開かれたもの、本区工業の「いま」を語り、「あした」への展望を切り拓く機会にしたい。」と挨拶、また児玉工団連会長は「この工業文化展は今年で5回目、月島の発展は目覚ましく、将来性のある月島で開かれ意義があると思う。」と述べた。

このあと乾杯をして、来賓の方々の交歓がなごやかに行われた。今回の文化展の開催に際しては、(株)日本印刷新聞社の栗原社長と田中宏和氏の企画・運営により、印刷コーナーが判り易く、しかも充実した展示が行われた事に、心からお礼を申し上げます。又、今回も日本精版印刷(株)社長の中村憲吉氏の尽力により、朝日新聞社から、生徒へ配る定規、双六を提供して下さいました事と、同文化展協賛広告にご協力下さいました支組員の事業所に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

(実行委員)

本部「敬老の集い」



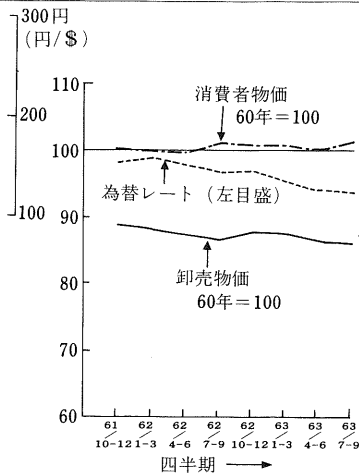
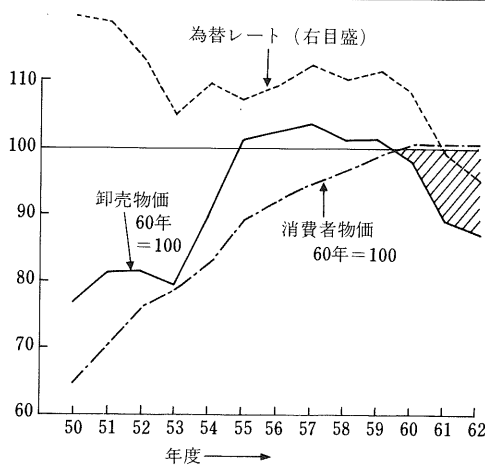
9月14日(水)、第22回敬老の集いが明治神宮、参集殿に都内各支部から94名の長寿者の方々が出席され、健康と長寿を祝う祝詞が神官によって奏上された。京橋支部から、瀬戸・白橋顧問、山内吉之丞氏、羽生通成氏、佐藤富次郎氏が出席されて本部役員の方々から祝いを受けられました。該当者(77才以上)の292名中、京橋支部は40名の多人数で、22支部中、一番多い支部でした。組合員数でも一番ですが、長寿者数でも他支部をだんぜん引きはなしていました。

鏡目司会挨拶 それでは定刻を少し過ぎましたので始めさせて戴きます。本日の講師の佐々木さんをご紹介致します。氏は私の友人ですが葉山で、すぐ隣りの家でしたので、その頃からの付き合いで、私より三期下です。略歴を申し上げますと、東工大の電気化学を出まして現在、日立製作所家電事業本部のマーケティング部の部長代理をしておられます。主に販売の予測や今度発売するものをこういう展開で売るのがいいのじゃないかと、世間の動向を分析し、購買意欲を高めるような会社の活動等の基礎データを集めて情報蒐集を専門にされる方です。今日はご案内のとおり「日本経済の遠景」という大きな題名ですが、マクロ的に種々の面をみていこうということでお話をお願いしました。

佐々木さんの趣味がヨットで学連の頃からその方面で活躍されてまして、レース艇の方でも何回か優勝されています。私も佐々木さんの紹介で、あるクラブの食客みたいなものですが、年に何回か集っています。佐々木さんは非常に、交際範囲が広くて、三菱総研とか、家電に限らず他の面でも日経ですとか、新聞にも販売予測等も共同執筆されています。今日は資料も持参

京青会十月度講演会 日本経済の遠景

講師 佐々木愼一氏
63・10・14 於 支部室



原油価格	12.05	12.69	13.69	13.89	23.08	34.62	36.94	34.49	29.62	29.14	27.30	13.81	18.15
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

CIF ドル/バレル

原油価格	11.02	13.35	16.60	18.10	18.27	18.40	17.84	16.36
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

CIF ドル/バレル

して下さいましたので、これから一時間程お話しを戴きたいと思えます。よろしくお願ひします。

佐々木氏 今ご紹介戴きました佐々木でございます。

実はお酒でも飲みながらしゃべるのはよくやるのですが、このように改まった形でお話するのは実は初めてなのです。いつも、今ご紹介のあった三菱総研とか、三和総研とかのシンクタンク系の経済予測のこととか銀行の調査部等と結構意見交換とか経済の予測がどうなるかと今実務レベルで、来年の予測をどうしようかと検討している最中なのです。これがどういう数字で出るか、上の人の判断によっては、これは新聞の発表と内輪の話とは大分違っているとか、そういう話が多いのです。その辺に関連しながらお話してゆきます。お手許にお配りした資料を参考にお話ししますが、今実務ベースでもって基本的な問題になってきますのは、景気に対して二つの見方をしているのです。一つは日経センターという所で経済予測をしている古齋さんのグループの見方と、三和総研でもって出している見方の二つに大きく分れています。

それが大きく両極端の見方になっています。今の景気が何で支えられているのかということの差、基本的な違いになっていきます。日経センターの方は消費が落ちないだろうという前提の上で、64年の経済は強気に行くのではないかという立場です。三和総研の方は輸入が増えてくることによって生産がダウンしてくると、生産

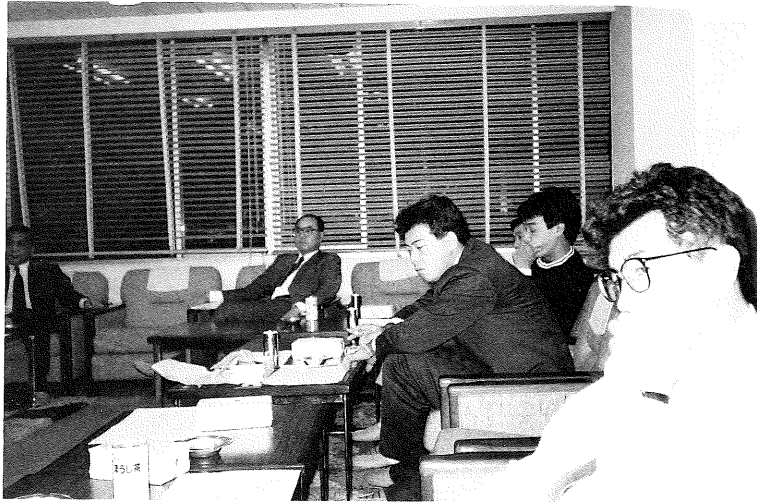
日本の就業構造と主要国比較

		就業人口 千人	構 成 比 (%)		
			第一次 %	第二次 %	第三次 %
日 本	1970(S45)	52,042	19.3	33.9	46.8
	1980(S55)	55,360	10.4	34.8	54.8
	1986(S61)	58,530	8.5	33.9	57.6
アメリカ	1985	107,150	3.0	26.9	70.2
西 独	1986	25,786	5.2	40.9	53.9
フランス	1984	20,941	7.9	32.0	60.1
イギリス	1986	21,547	1.5	30.7	67.7
イタリア	1985	20,507	11.2	33.6	55.2

が伸びないから景気が息切れしてくるという立場に立っています。

私がお話するのは日経センターの方に近い考え方を私は個人的に持っています。その一つとして何故、景気が62年から63年にかけてよいのかということになり、その位置付けをどうするのかとによって先行きに対する考え方が、全部変わってくると思います。それで資料一枚目の「日本の就業構造」というのと合せてお話しします。いろいろな理屈はあるのですが、単純に話を進めますと、まず基本的に一つは為替が高くなってきたこと、表では為替レートの右目盛に書いてありますが、敢て私は同じような方向を示

すという意味で、これを逆にしています。それで卸売物価と消費者物価の動きが違ってきている。この斜線で示した分が簡単にいいますと、製品価格の売値は下げないけれども製造コストは下って来ていますということになるわけです。卸売物価は工場を出ていく時点で捉えていますので、メーカーの方から出ていく値段というのは下って来ている。ところが売値、つまり消費者物価が下ってないということはどういうこ



とかと言えば、この斜線で示した部分の幅は流通段階で誰かが儲けているということになる訳です。それが大きくあるのです。実際問題として、円高でもって私が試算しましたら62年で18兆円位の円高差益がありました。差益の計算の仕方は種々ありまして各所でもって計算しています。一番小さいのは5兆、一番大きいのが20兆を超えています。

私が単純な計算でやると大体18兆円位で、成りの大きな差益が円高で生れてきた訳です。これが基本的に懐工合を良くしてきた大きな要素になっています。それで下の方に原油価格を入れてあります。原油も含めて材料がもうほとんど安くなったのが利いている訳です。原油価格は円高と低価格のダブルでもって安くなっています。この二つでもって非常に見えない形で、懐が豊かになった理由じゃないかなあと感じています。これが61年の頃は円高の問題というのは、むしろ製造業の方へ目が行ってまして、輸出が出来なくなつて駄目になるだろうと考えられていたのです。確かに61年の前期等は非常に輸出が減つたのですが、日本の構造の中で原材料が安くなった方が、むしろいいのだということとを誰もこの時に指摘をしなかったのです。62年の予測の時にこの部分が結局大きな盲点になっていまして、これが61年の頃は誰も儲かっているということを言わなかったのです。私共はあちこち聞込みをかけていたのですが、皆儲かってないと言うのです。

その時あるスエーデンのエンジンを輸入して

いる商社に聞いたら、実はポナスが4回出たとかいう話がこの頃生れているのです。それは但し、あまり騒ぐなということで、世間に知られると製品単価を安くしろということになるので、この頃は皆黙っていたのです。62年を予測する時に61年の実態がそうなのを、皆知らない顔をしていたのが、62年の予測を間違えた大きな理由なのです。その際、もう一つ大切なことは日本の流通構造というのが米国に比べて複雑で、長いという形でもって、円高の影響が徐々に利いていった。日本の流通経路が複雑であったのが逆に景気が爆発的に良くなるというプロセスになっている訳です。米国ではメーカーから大きなスーパー等にとつと流す形態のものが多くて、流通経路が短いのです。62年に通産省が裏で、指導を始めたのです。製品が下つてない、売値が下つてないのではないかと話が出て、こんな筈はないと円高差益を如何にして吐き出させようかと指導を始めたのが62年で、通産省もそれまで気が付かなかつたのです。そんな訳で61年から62年にかけて流通段階で儲かっていたのに、製造業が大変だと新聞に載っているの、言い出せなかつたのじゃないかと思ひます。

次に二頁目に今、言ったことをみるために、第一次産業と第二次、第三次産業の各国の比較をしています。結局円高でもって卸売物価で儲けたのは第三次産業ですが、この分野には60%近くもいるということなのです。私共のよ

くないのです。円高で儲かつた第三次産業にメスを入れなかつたのです。

それと経済予測をする立場側の人も、これまでは製造業の動向を注意していればよかつたのです。それが予測のミスが生れた原因です。30%のメーカーの所に、皆銀行の調査部や他の調査機関が聞き取りをやつてました。第二次産業は皆これは厳しくて、とてもじゃないが駄目だと答えていたので、その3割の人が日本経済を動かしているかのような感じだつたのが、実際は円高というのは6割の人が動かしているのだということ、ここで狂つた訳です。

日経センターでは消費の時代になるというので経済予測の主任研究員を入れ替えたのです。日経新聞では消費研究所というのを設けまして流通新聞の記事を書く優秀な人が予測の方へ移つたのです。私も何故移動したのか聞きましたら、消費が一番判らない。聞込みでも消費者の行動が掴めないというので、その方面の補強をしなければというので移つたということです。日経センターでは早目に手を打つてあつたなあという気がします。また三菱総研でもまだ実務レベルはそんなに動いてないので、この予測も今回は外れるのではないかと感じています。

一方三和総研も銀行が主体なので、メーカーばかり聞込みをやつていまして、8割方が製造から聞込みをしていますので、これも駄目ではないかと思ひます。三和総研の予測担当の人とは飲み仲間なものですから、メーカー聞込みは程々にして「サービス業の情報網を作らないと

予測が全部外れるよ」と話しましたが、経済予測というのはその周りの聞込みによつて全部決つてしまうので私はあちこちにそういう聞込みルートを作つてますが、どこがいいのだろうかと、掴む時にどうしても幅広く情報を取つていないと現在置かれてる状態がどうなのか判らなくなるのです。ですから私はヨットクラブを自分で作つて現在会員が60名位いるのですがその中に社会人が40名位います。その人達が皆いろいろな会社において、葉山の近くに住んでいるものですから昼食を喰べながら話を聞いそれを聞込み代りにするのです。そうするとメーカーに行つてるのは厳しいとか言つていますが、メーカーでも半導体売つているのが2人いたので、悪い悪いと言ひながら段々と上つてきた等、要するに情報を広範囲にとつてないと予測を間違える元になるのです。私以外の電機メーカーには一切聞込みはしません。但し西武デパート等にはよく聞込みに行きます。ただやはり本音を仲々言つてくれないので、それを聞出すようになるのに3年位かかります。それ位かかないと本当の話は判らない。表面でもつて付き合つてると新聞に書いてあることしか言つてくれない。実態はどうなのかを聞かないと駄目です。私は3年位かけてある程度の業種をカバーしていますけれど銀行等は個人的に付き合つていないし、自分の金でもつて飲みながらでも聞込みをすることはしないものですから、随分片寄つた感じがしています。「銀行の予測は時代遅れではないか」と彼等には話して



います。「資本に任せてやっていると間違えるよ」。銀行は経理の数字は必ず擱んでいます、予測としての意味合いのことはそれはそれで擱めませんので、内容が判らないという訳で、世の中がどういう方向に動いているのかという時に良く見えないと間違えてしまうのです。

デパートなんかは61年頃から景気が悪いという話はあまりしなくなりました。私もおかしいなあと思ったのですが、売上げは全然伸びて

いなかったので。百貨店はそれまで2〜3%の伸び率で今は7%位伸びています。儲からないとは、一言も言わなくなったのです。おかしいなあ、何か隠しているのではないかと聞いたのですが、やはり輸入品の扱いを増したことを隠していたのです。それから儲かり始めた。そのことを表立って言ってくれないので判るまでが大変で、輸入品が儲かっているから今は良いのだという話は大分後で判ったのですが、こちらは輸出専門なのでがっかりしました。消費というのが何故判らないのか、聞込みに頼らなければいけないのかという問題が一つあるのです。消費に関する統計というのは御存知のように百貨店とスーパーの売上げが基準になっていて、あと家計調査年報というのがありますが、そのデータは伸び率がいつも低いのです。そのように統計が整備されていないということもありまして、マクロ的にみても非常に押え難い状態になっている。

通産省でも今週ですが、この辺の統計を見直そうではないかという話が既に出ています。この統計が整備されてくると或る程度のもっと判るようになる気がしますが、今後の日本が生産立国であると共に消費立国になって来たという通産省側の認識の表われじやないかと思えます。でも現状では聞込みが大きな要点となっています。それで円高の問題ですが、消費者の心理が変ってきたなあと思っているのですが、早い話が女の子が活発になったのは円高になってからなのです。円高になってから女

性、キャリアウーマンが台頭し、風を切って歩くようになったのです。それらの女性は円高で割安となった海外旅行に皆行っているのです。消費率の中でも女性の消費が動いているという話が今非常に多いのですが、それは女性が海外に出掛けて行ったということが今大変に消費の中味を変えているのではないかとこのように考えています。消費をあまりするのは馬鹿だと、私等40歳位までの人は言われたものですが、今の若い人達は全然変わってきております。今は海外へ行って日本の円は強いのだということに逆自負しているという感じがします。

百貨店では高級品が売れてうれしい悲鳴を上げていますが、それも欧州系の物が非常に良いということ、特に家具・食品等が本志向というので欧州調の伝統ある形への憧れが強く、大変な売れ行きだそう。乗用車でそれははつきり判るのですが、キャデラックのような角張った形のものから丸形のものへ変わって来ているのは、どうも海外に出て行った人達が増えている影響をトヨタあたりは非常に早くから擱んでいたなあという気がしています。

日産はそこでもって少し出遅れたと思います。トヨタはやはり市場調査を良くやっているせいか、感性というのかが気が付くのがとても早かったです。消費者の商品の選択の判断基準というのが、今大きく変わりつつあるのではないかという感じがしています。実は二週間程前に出た電子機械工業会の「電子工業」という本があるのですが、その草稿にも書いたのですが、今円

高でもって商品がいろんな国から入って来るようになって、今まではメーカーは売れるというところだけを考えていたのだが今度は買われるという立場になってきたのじゃないかという話を書いたのです。それはどんなことかと言いますと、今までは日本のメーカーが日本人に売っていた。それが世界の企業や消費者が自分の好きな物をあらゆる所から引張り込めるという状態になって来るので、メーカー主導型でなくて消費者主導型のパターンがこの円高で急速に進むのではないかと、今までは要するに当てがい扶持で、私共メーカー側では大体こんな物でいいだろうという恰好で売込んでいたのですが、消費者が世界中のカatalogを集めて来てそれを見るということが現実起こってきています。自分の欲しい物が何であるかと、今消費者は動いています。恐らく来年か再来年消費者の調査を博報堂や他でもやっていますが、そういった結果を出して来るのじゃないかと思えます。安いものや機能は簡単なものは韓国製の電機製品となると、日本のメーカーはどこへ行くのだろうという話がかれから出る可能性があると思えます。社内ではあまり私はこういう話はしません、マスコミには話して歩いていきます。日本が今まで生産立国と言われていたのが、消費立国になる時に本当に消費立国のパターンに合せたメーカーがこれから生き残って行くのじゃないかという感じが非常にしています。消費立国というのは世界中の物を何処からでも持ってこれると、その中で如何にして生きて来れるかというのが

これからのメーカーの置かれている基本的な問題じゃないかなと思います。

次に日本の世代論を含めてお話しします。3頁に主要家電製品の推移をグラフにしましたがカラーテレビが62年に90万台と出ています。冷蔵庫が40万台、洗濯機が403万台、掃除機が488万台ということ。洗濯機と冷蔵庫がほぼ同数だということにお気付きになると思いますが、この日本の人口規模でいった場合に、1家に1台ある物は大体400万がレベルなのです。結局それ以上入りませんよ、ということなのです。400万というのは限界値になります。それでカラーテレビを何故取り上げると言いますと、この数字は大体2倍になっています。これは1家に2台あるということ。ですから本当に長い目で見た場合には1家に1台、1家に2台という数字で物を観てゆけば、大体数字のレベルは決っています。自動車は400万台位ですから限界値が400万台となり、世帯数は307万世帯ですから大体これに法人分を入れて400万台になるわけです。この表に米国を入れると面白かったです。米国は米国は大体日本の倍になっています。米国のカラーテレビは7千800万台ですから人口の数に比例しています。日本の人口の倍ですからそれに比例して電機製品の順番が決ってくるのです。時計の推移も入れようと思ったのですが、資料が間に合わず、取れませんでした。大体1千万個の記憶があるのです。ここでVTRを取上げませんでした。今62年で633万台ということ、もう今年頃800万台のレベルに行こ

うとしています。何故かと言いますとVTRというのはカラーテレビの付属品なのです。カラーテレビがあればVTRが入ると考えますと長い目で観た場合、カラーテレビと同じ台数まで行きますということになってきます。VTRは今、カラーテレビと別々のような発想がありますが、実際は違うのです。VTRはカラーテレビ以上には行かないだろうと考えていますが、超えるという話もあります。それは団塊の世代の所で一寸触れたいと思います。1家に1台なのか、それが半分位までしか行かないのか、それが財の特質を決めてくるのです。それでこの中で、一寸面白い伸びをしているのが掃除機、これが過去をみていくと56年あたりは、ほとんど洗濯機と同じ数になっていますが、この時代は掃除機が1家に1台の割だったのです。ところが今掃除機は他に比べて伸びているのは、2階建等を含めて各部屋へ入り始めていることなのです。それが488万として表れて、80万の差は2階まで持運びするのが面倒だという訳で、現実には洗濯機とか冷蔵庫は家単位の、家庭を中心にした物から、この掃除機は部屋単位として部屋別の形に移行してきているということなのです。これからも掃除機の需要が伸びて来るというところで、一体どこまで行くかといえ、私の考えでは大体600万台までは行くだろうと思えます。同様にエアコンも今伸びています。このグラフには入っていませんが、今年も住宅着工がいいとかで、各部屋にも段々入って増えています。関西などでは1軒で3台位の所が増えています。

ます。東京ではまだ2台程度です。そういうわけで、部屋数に対して入る掃除機やエアコンはこれから台数が上って来ます。

次頁に入れているのが団塊の世代についてですが、この世代が61年、62年あたりから動き出して来たのです。というのは団塊の世代というのは大体昭和22、23年頃生れた人達ですね。その人達の子供がそろそろ大人になって来たという訳で61年頃から財の購入が上がり始めた大きな理由なのです。というのは先に触れたホームアプライアンスからルームアプライアンスへの転換が起こりつつあるということをやったのは団塊の世代の親と子の年代からみて、そのような動きが表われてきたのではないかということです。つまり勉強部屋造った、暑いのでエアコンを入れてくれ、掃除機を入れてくれとかという形で62年は台数が上って来ているし、これから先も或る程度行くのじゃないかと考えています。私はこれについて電気機械工業会の国内調査委員会の委員長をやった時の資料ですが、団塊の世代の上下世代（10歳違い）に同じ質問を行ったのです。それでどう差があるのか見ようとしたのですが、実は40歳から50歳の人と比べて大して変りがないということが一つ、これは各商品全部で30種類について、どういう点をポイントにして買いましたかと質問をしたのです。ところがその10歳下になる28〜30歳代の世代では機能が沢山ついていて、デザインに個性があるかどうかという点が非常に多くなっています。この世代は商品の選択の仕方が大変う

るさくなっています。団塊の世代は量が出るけども、商品に対して昔のままでもいい訳ですが、若い人程、性能にうるさくなっています。その二世は自分に合っているかどうか大きな基準となっている。それで先程言いました円高で世界のあちこちから引張って来るという話とその点で何となく結び付いて来る、という方向へどんどん動き始めていくということです。要するに商品の選択基準が変わってゆくだろうということです。デザインに個性があるか、各人に合った個性の物を私共メーカーでも、全部用意できませんので困るのです。2〜3年前に「分衆の時代」という本が博報堂から出て、その言葉が流行りましたが、本当にそんな形のものでこれから、どんどん生れてきそうだと感じがあります。それが消費の中で変り目になって来るのじゃないかと日経センターの方は早めに気が付いていますし、銀行の方はまだ気が付いていないという気が一寸しています。そういう流れの中で消費を見ていないというように感じられます。

これは実は4月20日頃ですが、工業会の発表として初めて私の記事が新聞に載ったのですが、新聞も実にいい加減なことを書くなあと思ったのですが、A紙は団塊の世代はもう終わったという書き方をしたのです。というのはもう商品に対しては何も言わないということの主眼にして記事にしていたのです。後でA紙の記者と口論をしたのですが、今景気がいいというのは量が増えているということが大きな問題なので、そ

こをちゃんと書いて呉れないと困ると言いましたが、経済紙はきちんと書いていました。B紙は女性記者が来てご説明は要りませんと言うので、いい加減なことを書かれては困るので説明すると言うと帰っちゃいました。C紙は可もなく不可もなくでそのまま載せてました。A紙は非常にひねくれているなあと感じましたが、A紙の経済消費欄もありよくないなあと感じますのはああいう認識論の所で一発ひねらなければならぬという形がどうも利き過ぎて、うがった変な方向に向いてしまっているのではないかと気がします。あの時は非常に面白くて経済紙の記者からまた呼ばれたりして、また産業欄に追加記事を一寸載せて貰ったりしました。何故消費がいいのかという話の中で、こういう団塊の世代の位置付けをしながら、団塊の世代の家族構成が変わって来る時期にあるということ消費の流れが変わって来ているのだと認識をして貰いました。今回の工業会の仕事は競輪資金から1千万円もかけて調査したのですが印刷を200程程するのですが、いつもは残るのが、今回は各企業から貰いに来て可成り好評だったようです。昨年テレビで団塊の世代がとり上げられていましたが、マスコミで調査したのが、これだけではないかと思っています。

さて次に設備投資動向、輸出と輸入の動向についての話になるのですが、設備投資という量を稼ぐための設備投資が多かったのですが、それが今はあまりなく、私共の家電製品で言い

ますと、カラーテレビの大型化が今進んでいまして、25、29インチ等が売れていて、それらのラインを変更してゆくといい投資は今非常に増えています。ですからそういう消費に合せた形のもので絶体量を増すための投資ではありません。

その一つは研究開発投資が非常に多くなっています。これは長期戦略、5年後、10年後を考えての投資が増えています。それとも一つは、日本が海外へ出て行ったということで、企業買収のための投資も増えています。そういうものも全部この設備投資の中に含まれている訳です。ですから設備投資が伸びているといつても別して考えないと間違える恐れがあります。三井銀行の産業調査部の出した産業特報というのがあるのですが、その中にもそういったことが出ていました。それから第三次産業ではほとんどO A化の設備投資です。それはもう多額のものがあります。例えばサッポロビールの方と話しているても販売網をきちんとしようというので、そうした情報をとるために年間に10億円位かけて情報網の整備を進めています。その他西友や家電の量販店もそういう動きをしています。広い意味でのO A化投資は今盛んに行われています。長い目でみた生残り作戦としての投資を今必死になってやっています。ですからうちではO Aは、あまり強くないのですが、O A機器メーカーなどではファックスの用紙で可成り儲けていて、メーカーで一番利益率のよいのはジエゾの紙だといっています。ですから見えない

所で儲けているという形がよくあるのです。

我々は機械を売る方ですが、あとについて来るメンテナンスを売る方が遙かに業績が上っています。機械本体は安く、会社購入では入札のよくな形になりますので、どうしてもやられてしまふのですが、メーカーによってはそれらの紙を扱っていませんので、儲かる所が限られてしまふのです。コンピュータの場合、いくら値下げしても、例えば80%引きで大型を入れたとしても機械で回収するのではなく、ソフトで回収しています。プログラミングをやる時にはその会社の人では動かせない訳です。ですからソフトもこちらで作成して利益を出すのが通常なので、機械で損をしても元は取っています。これらが隠れたところなのです。ハイテク産業なんて決して儲からないのです。ハイテクは技術を集約して恰好いいという訳ですが、ハイテクになればなる程、価格競争が激しくなつて来て、参入メーカーも多くなり価格競争ばかりやっています。それで利益率が悪いのです。ハイテクで儲けている所はないのです。単体では儲かりませんが、さすがにそれがローテク位になつてきた時儲かります。ある電機メーカーでもこんな話があります。部品のネジは昔は主流に使われていたので、皆わつとやっていたので採算割れしてやめていったのですが、メーカーが3社位になつたが、そのピスは量は減つても絶対に要るものなので、そうなる今度は価格の操作が勝手に出来るのです。そういうローテクになつた時、会社数が減るので案外儲かつて来ます。

例えば今、全自動洗濯機は凄い勢いで伸びているのです。これははっきり言って、今は儲かっているのです。そのように注目される物が儲かつてなく、隠れたものが案外儲かっているのも面白いものだなあと思っています。生で聞込みを

していますと、その辺の話が時たま聞けるのですが、そういう話は仲々してくれません。話を聞きながらこの会社はこういうふうになつていくのではないかと判断して、経済予測の中に生かしていくのです。そんな訳でいろんな所に話を聞いておかないと見誤ります。伸びてなくても参入している企業数の少ない物の方が利益率は全然高いのです。新聞等では常識的に一般受けするように書かないとまずい訳で、記者等はハイテクは如何にも儲かるぞという話でもって書きますので、我々家電の広報もそれに合せておかないと、お前の常識は違うのではないかといい話も出るので、裏側ではそういう話は殆どありません。利益率を優先していく形の企業競争は勿論あるのですが、日本のメーカーは表側では必ずシェア競争をやつてしまうのです。それが西欧では利益重視型の経営をやつていますから、そこのギャップというのが基本的な貿易摩擦の大きな原因だなあという感じがしています。私の説明はこの辺で終らせて戴きます。どうも大変、失礼しました。(拍手)

鎮目司会 どうも長い時間有難うございました。今伺いました演題が、「日本経済の遠景」という大きなもので果してどういいう話が出てくるかと興味深かったのですが、氷山みたいなもので、

販売予測にしても出ている部分が非常に少く、その下に沈んでいる部分を取るとか、また逆にその陰から取っていく方法があつて、そんないろんな情報を得ながら形作っていくということじゃないかと思ひました。折角の機会ですのでは何か質問があれば、どんどんお願いします。

松川 米国の経済予測というのは常にひんぱんに4半期毎に出ているようですが、日本の場合少ないのですが、その辺の事情は如何ですか。

答 米国の経済予測というのは季節調整という考えを取つてまして、それをフルに使つています。米国の場合、前月比とか前期比とかいう言葉で出てきます。これは季節調整をしているという意味なのです。日本の場合は前年同月比なのです。前年と比べての伸びなのです。例えば、米国の場合、第1四半期で0.2伸びたとすると、それに掛ける4倍しますと年間の伸び率になります。ですからこの第1四半期の数字が振れますと、年率では大きく差が出るのです。第2四半期で違う数字が出ると、またそれで予測することになる。本当にそうなのです。例えばカウアレンボードという予測があるのですが、それが数字がすごく変わってくるのです。どれを信用するかということになり、私はもうあれは使わないと言つています。日本の考え方よりトリックキーに現われるのです。それは数字の捉え方、考え方が違うので振れてしまいます。私もよく変るので困るのです。実は上司の人が新聞を見てその度に聞かれるのですが、こういう話は説明しても判つてくれない。重役とかに聞かれて

説明するのですが、いつも数字が変わるので仲々大変です。季節調整の話では米国が1ヶ月程前、非常に悪いことをやったのですが、米国の貿易収支を季節調整した形でもって発表し始めています。というのはそうすると数字が小さくなる。米国が必死になつて、ドルを防衛するために発表する数字の基準を今変えています。もう一つ悪いことをやり始めているのは、統計の範囲を少し狭げようかということです。これもドルを防衛するためで、今米国は必死になつています。

今日あたりは1ドル127円位になつていますが、あれはオイルのせいだと思つています。失業率云々という話がありますが、基本的な背景はオイルです。サウジが怒つてしまつて1バレル10ドルまで下げてしまうぞと、号令をかけているので短期的に今それが利いているなあと思つています。サウジも米国と組んで、自分の覇権を握るため徹底的にやるでしょう。そのあとでもつて、今度はまたオイルショックです。一番恐いのは、今日の話の中では触れませんでした。オイルショックの再現と債務国問題、一次産品の多い輸出国が今、債務を非常に多額に背負つているということです。この問題を清算するには、昔だったら戦争をしてご破算にしましょうということもありましたが、今はそうは行かないのです。宮沢構想というのがこの頃、新聞に出ていましたが、あれは債務をいわゆる債券化して、世界中でぐるぐる回そうというものです。第一次産品のショックには日本が一番

弱いのですからそこで歯止めを掛けるために宮沢構想が出てきたのだという感じがします。一番恐いのが原材料の値上りです。再来年あたり出て来るのじゃないかと思つています。その場合は円が150円位に戻つて来るでしょう。そうするとまた日本は不景気になります。日本は材料が上ると、とてもじゃないがやつてゆけませぬ。そういう形の問題が恐らくまた出て来るという感じはしています。宮沢構想には米国が基本的に反対してしまつて、米国は自分のやりたいように出来なくなるので反対しているのです。債務国の問題がうまく処理できないと日本も大変なことになるのではと思ひます。銀行もその辺のことは考へていると思ひます。

小宮山 今、産業の空洞化が言われていますが、資料の就業構造でも第3次産業が増えているように、日本の産業も海外へ進出を考へて行かねばならないようですが、如何ですか。

答 はつきり言つて私は日本の産業の活動は落ちないと思つています。資料では第2次産業の就業者数が今34%位ありますが、これが30%位までは行きますが、その辺が限界値かなと思つています。産業の空洞化という話は確かに一部あるのですが、第2次産業は既に、この中で第3次産業化しています。それは実は統計が取れないものですからこうなつていますが、例えばメーカーに勤めていると第2次産業ですが、メーカーの販売をやつていられる人を増やしたら第3次産業です。その意味では第2次産業に第3次産業を含んでいるということになつてい

思います。生産ラインに携っている人というのはやはり減ってきて来ます。でもそれは生産量を落とすということではありません。それよりもっと恐いのは、あと10年もすれば円安になるのではないかという危惧です。これは何故かという、私の例で話しますが、東工大のヨット部へ毎年行つては皆にどこへ就職したかと聞いています。後で情報を取ろうと、方々へアンテナを確保して置けばよいという訳で必ず行つて聞きます。メーカーでもそうですが、今卒業して製造業へ就職する人が非常に少なくなっています。優秀な連中は例えば銀行、証券へ流れ出しているのです。ということは、日本の産業の技術が長い目で観ると落ちてくるという可能性があります。産業の空洞化よりもっと深刻な問題です。空洞化は何か耐えしのぐけれど、技術のレベルを上げられないという基本的な問題が出る恐れがあります。東工大の大学院を出た材料化学のヨット部員はリクルートへ行っちゃったのです。ですからもう参つたなあと思つています。私の個人的なヨットクラブでも、東大の工学部を出たのが銀行へ行つて居るのです。以前では考えられないことです。昔は工学部へ行くのは変つた者が多く、私のようなアウトローで出ていった者ばかりだったので、今は真面目なのが機械工学を出て金融関係等へ行くのです。それに歯止めを掛けるには給料を上げるしかないのです。このような状態が続けばそれもまた円安になる要因なのです。企業の国際競争力が失なわれます。その意味で、どちらにし

ても10年先は円安になるのではないかという話を今私はしているのです。産業の技術力が落ちることになるからです。東工大の先生からもそういう話をしてくれと依頼があったのですがその日に丁度、会社の仕事が入つたもので、残念ながら中止になりました。この話は東大の先生も同じようなことを指摘しています。

小宮山 外国からの労働者の流入はどうですか。

答 外国人の労働者の増加については私はまだ入つてくると思います。東京等、下手をすれば100人の内、5人位は外国人ということになるのではないかという気がします。この次1ドル100円の時代になれば製品の価格を下げる競争をしなければならぬというので、なお増える傾向になるでしょう。

鎮目 生産技術の面で人的な流れで片寄りが出るのとブランドが続きますが、それが回復するにはどの位期間が掛りますか。

答 ハイテク等、3年のブランドが出ると仲々技術の吸収は出来ません。5年だと一寸悠長だと思つています。うちでも工学部の人が少なくなつて問題になっていますが、私が入つた頃はリクルート等より家電メーカーがトップだったので、今はIBMとかが入つてメーカーは落ちています。

松川 印刷業界でも最近ハイテク化が進んでいますが、それについて、どう思ひますか。

答 印刷業については今回も調べていません。あまり変なことを言つてご迷惑を掛けてはいけませんので、止めにしました。

OA化が進んで来ていますが、仕事の能率が上がるのかと言えば、あまり変らないのです。私も5年位前に仕事の能率化を図るといつて先頭に立つてやれといわれた時、やつても仕様がないと言つて怒られたことがあります。工場を作つた時も逆にコンピューターでやると融通性がとれないのです。そして採算が取れない内に壊さなければならぬとかで問題になっている工場もあります。今回の円高で62年は中小企業の倒産件数は増えていません。前の時はものすごく増えたのです。以前と条件が違つています。前は円高に対応できなくてつぶれる所が多かつたが、今回は円高を逆手にとつて生き残つているというのが現状です。

松川 米国の就業者比率は第3次産業が70%もあるというのは逆に、ドル安になるのでマイナスイ利益を受けている訳ですね。

答 逆に言えば米国は消費立国だと言える訳です。米国は物を買う時はクレジットがほとんどです。で金利でもつて操作できるという問題も出てくる。消費立国でカードだという問題がそこにあるのです。インフレの話は時間がなくてしませんでしたが、米国は貿易赤字等は何とも思つてないのじゃないかと思ひます。米国は大統領選挙が終ると景気が悪くなると言われていますが、やり方を観ていると米国は第1次産品で主導権を握りますよ。それしか考えられません。いつも米国は落ち込んでくるとショック療法をやります。ニクソンショック等はいい例です。自分の勝手放題やります。日本で第1次産

品で困るのはハイテク関係のレアメタルですね。あれが困りますが、今中国とソ連と南アが主産国ですので仲良くしておかねばなりません。1992年のEC統合もありますが、ソ連が今盛んにモーションを掛けていますが、その辺で構図が変わって来そうです。これからは政治と経済の関係を合せて考えないと予測が出来なくなつて来ます。政治も判らないと駄目になつて来ます。

宇野 この景気は長く続かないのでしょうか。
 答 消費が強いですから、或る程度続くと思つています。ただ伸び率は低く高位安定水準という表現の仕方じゃないかなあと思つています。消費が占める様子が変わつて来たと最初述べたのはそういう意味で、三和総研と日経センターの立場の差を言ったのはそこだったのです。

消費の方を観ておかないと、今消費が落ちると国際問題になるのです。何故ならば輸出圧力が強くなる。それに完成品輸入が少なくなつて貿易黒字がどつと増えるのです。ですから政策的にも出来なくなります。今消費税で騒いでいますが、減税優先からみればいい手です。昨日ですか、サラリーマンの税金比率が少し落ちてきたという話が出ていましたが、そのようにならないと、消費が拡大せず、ひいてはNICSの国も飯が喰えなくなる。そうすると敵を作ることにになり、それでも欧米を敵にしていますので、新興工業国まで敵にする訳には行かない。でないと日本は孤立することになりますので、消費を落す政策はとれないと思つています。

松川 インフレの問題はありませんか？

答 インフレの問題は円が安くなれば出て来るなあと思つています。今一番可能性があるのは昨年まで、資産効果というか、土地を持つている者が勝つていふことですが、固定資産税で評価替えになると上つて来ますので、コストが上りますのでコストインフレが起こつてきます。私は今、それが起こつていふと観ています。ただ全体の景気がいいので隠れている状態ではないかと思つています。今実際にコーヒー店の値段が上つていふます。一寸ずつ10円、20円ですが、

地区だより

京橋地区 一区旅行会

京橋地区(私たちは、「一区」と呼んでいます。)では、年に三回ほどの会合を開いております。去る十一月十八日にも、毎年恒例の忘年会を兼ねた旅行会を開催しました。

旅行会と申しまして、名所、古蹟の観光はまづおいて、繁忙期ということでもあり、手軽に近間の温泉で一泊。言つてみれば、たまには場所変えてノミニケーションを図り、会員相互の親睦を深めることが大きな目的であります。今回も、交通の便利が良いということも加え、日本を代表する温泉地である「熱海」が選ばれました。

一区は会員十二社ということで、他の地区と

コーヒーは上げる理由がないのです。原料は輸入ですから安くなつていふ管ですし、矛盾して地代が上れば家賃が上がる。これがもう始つていふと思つています。これが出だすとインフレになると思つています。インフレになる条件として他に円安になるということ、150円になればインフレになります。それと消費税です。消費税が出てくる時、価格への転嫁が行われると、インフレになる可能性が大きいと思つています。以上です。(拍手)

(文中敬称略)



比べますと、ややこじんまりとした感じはいなめません。しかし、その団結力は他地区に優るとも決して劣らぬものと自負しております。特にこうしたパワーには、目を見張られるものがあります。

当初は八社が参加する予定でしたが、いろいろなご事情で結局、六社での会となりました。当日は六時から宴会ということでしたが、一部の会員の方々は四時前から旅館に來られたというので、その熱意の込めようはまさに仕事以上のものであります。

今回の旅行会につきましては、本誌の記事にされるといふことでもありましたので、フラッシュ付きの使い捨てカメラを持参、和やかな数々の名場面を写真に収めました。が、和やか過ぎて、いささか公表に不向きと思われましたので、残念ながら、発表は割愛させていただくことにしました。

お定まりの二次会は、旅館内のカラオケクラブで、お互いに自慢のノドを披露したり、良きパートナーを擁護してダンスを楽しんだと、思い思いのひとときを過ごすことが出来ました。その後のことにつきましては、何故か私も記憶が定かではありませんので、ここに記すことが出来ません。けれど、この会の目的が十分に達せられたであろうことは、確信しております。なお、今後は、夜ばかりでなく、昼間の観光も加えた行事を企画していきたいと考えております。

銀座地区

当地区には、銀座三区親睦会があり、三区とは以前一区二区三区とあり、三区に統合されて現在銀座地区会二十二社と関連業者九社計三十一社で形成されている。

その親睦会で年一回の旅行があり、この度十月二十二・三日の一泊旅行が行なわれた。参加数二十五名で、上野発（あさま九号）十時に出発、電車が動き出すと共にビール、酒、つまみ



等が配られ和気合々と車中での小宴会が始まった。横川駅に着くと釜めし弁当が配られた。二時間五十分の時間が、あつという間に過ぎ長野駅に着いた。ホームにおり立つとバスガイドさん迎えに来ており、一同チャーターしたバスに乗り込み小布施へと直行した。小布施は栗の産地で、種々な栗菓子、栗めし等あり、もう土産を買い漁る方もおりました。

北斎館 葛飾北斎が晩年の数年間、高井家に滞在して、製作した祭屋台天井絵、当地に描き残された逸作と青・壮・老の代表作が展示されました。

また丘にある、岩松院に行き天井に描かれている、鳳凰を仰けになり拝観した。説明によると、一五〇年程前に描かれ色採がそのまま現在まで修復されていないとのこと、赤・青・緑等の色が鮮やかであった。それは中国より取り寄せた、ルビー、ヒスイ等宝石の粉を塗料に入れたとあるとか、実に見事な色彩であった。

それから、臥龍園を一廻り散策し、宿泊地山田温泉藤井荘へ向った。途中石山を削り緑石、シャリを採取している山を横に見て、藤井荘に到着。相当な山奥なのに、立派な建物である。

温泉につかり六時から宴会に入った。長野市からの六名の若いコンパニオンのお酌で大酒宴となった……。

翌日旅館を出発志賀高原へと迎った（志賀高原は佐久の志賀出身の神津さんが開発したとか）。蓮池に着きそこから四〇人乗りのゴンドラで発哺へ乗りつき高天原へ、高天原では九時

の気温が零下二度と掲示されており、寒かったが天気は良く左から八ッ岳ノ北アルプス等展望が、すばらしかった。天望台で写真撮影の後、ゴンドラ、リフトを乗りつき、東館山……発嘴へ、途中志賀高原のスキー場の多くのリフトを眼下に、また見事な紅葉に燃える山々が、非常に美しかった。それから湯田中で信州名物「そば」で晝食をとり、長野駅へ。

長野発（あさま二十六号）上野駅十八時四十五分着、の電車で帰京、駅で解散、それぞれお土産を手に、家路へと急いだ。（Y・H）

互友会恒例の旅行会（築地地区）

伊豆半島一周の旅（築地―沼津―大仁―堂ヶ島―松崎―下田―河津―天城越え―浄蓮の滝―箱根―築地）

十月に入った途端天候が回復し絶好の旅行日和となった。それは毎日雨ばかりの九月が終るのを待つかのように燦々と降りそそぐ太陽の光が我々を迎えて呉れた。これも地区長を始め幹事一同の幸運のしからしめるものと一行は理解したのである。旅行はどんな場合でも好天が唯一の贈り物であるといわれる。今年の場合には特においでである。したがって一行十八人の気持ちは皆一様であった。

いつものように午前八時三十分熊谷印刷前を出発したバスは一路今夜の宿泊地である堂ヶ島のホテル「銀水荘」へと向かって走った。今年

の旅行は昨年、一昨年と北関東であったのでたまには西へという訳で佐野幹事の肝入りで堂ヶ島となった訳である。そして日の出とは逆に西から東へと半島の一周を考えたようである。途中の東名高速は以外に空いていて順調そのもので時間調整すら取り入れた程だった。予想された土用日特有の自然渋滞もなかったのである。途中の景色は雲がやや多めで箱根の山々や愛鷹山が満足に見られなかった程度でまずまずの天候であったといえよう。考えて見ればあの雲は昨日までの雨雲が逃げ切れずに遠慮っぽく残っ



“花と潮騒の郷”

ているといった風だった。途中足柄SAで小休止のあと一路沼津インターへと順調な流れに乗って移動して行った。

沼津インターを出るとまず大仁の洋蘭センターへと進む。先着のバスは少かった為か、最初のカモ来たらんといった感じの出迎えぶり。まずみやげ用のワサビ作りの工程を見たあと洋蘭室へ。サボテン公園とは比較にならぬが、見事な花とその種類にはビックリさせられた。しかし花をよく見ているとなんとなく女性(?)を感じさせるから不思議だ。この見方は私ばかりではなかったから客観的である見方と判断していいだろう。ついでに昆虫館では「世界昆虫博」を開催していたので見学する。蝶々と甲虫類が中心であった。アフリカ産や、東南アジアの蝶々の姿が大きいばかりか紋様がすばらしく綺麗であったのが非常に印象に残った。また紙切り虫や甲虫、鍬形虫など大きいのは大人の手のものもあり気持ち悪い位であった。こうした虫は小さい処に可愛さがあるがあまり大きいと気味が悪くなる。このあとドライブインで昼食。この店の弁当は米飯がよかったことと、ウドンの腰の強さが味を引き立てうまかった。空腹のせいばかりでなく一行のほとんどが同じ意見だったようだ。

堂ヶ島は西の松島ともいわれるだけに島めぐりの船は旅を楽しませて呉れた。紺碧の空と群青の海のコントラストの中に浮かぶ島や奇巖が歴史と風土の中で波と風によって形成された自然のなせる術にしばし見とれた。伊豆半島の西

海岸は自然との闘いの中で生れた姿を男性的とすれば東海岸はまさに女性的である。船から上がっても銀水荘に行くにはまだ時間がある。皆思い思いに付近を散策する。お天気が良いので眺めは良い。ようやく時間がきたので海岸から五分ばかりの銀水荘へ向かう。ガイドより温泉が湧き出たのが昭和三十七年、温度は四四・六度、神経痛や高血圧によくきくということであった。

銀水荘は社員教育とお客に対する気配り、心配りがよく出来ているという話を友人から耳にしていたが、まさにそのとおりであった。まず部屋に案内されて、係りの女中さんから丁寧な挨拶のあと抹茶をたてたのを出して呉れたのでまず喉をうるおす。そして非常口、非難場所の案内など要領よい説明があった。ペランダも広く非常用にも使用できるということであった。部屋の中を見渡すと配置は何処も同じ。テレビの横をふと見ると、赤い小箱が置いてある。何だろうと手にとって蓋をとると針箱であった。

この気配りには一同感心。また冷蔵庫の上には密閉したセブンスターが五箱置いてあった。こうした経験は初めてであった。ホテルは断崖の上に建っているので眺望は良い。宴会の前に地区長より報告事項があった。新地区長初めての旅行会であったがスムーズな運び方で大変評判も良い。お楽しみ料理は値段も高いだけあって、前菜から伊勢エビ、鍋物までまずまず。芸者のいない御当地は沼津から呼んだコンパニオンがその代役。客扱いはかなり訓練されている

ようだが、まあ若さだけが売り物。六本木ギャルに着物を着せた姿を思い出してもらえば良い。唯しマスクはまあまあだが頭の回転は早い。二次会のラスベガスショーを彼女等と一緒に見てひと夜は終わった。外に出ても遊ぶ場所がないので武勇伝はなかったようでも朝食にも話題一つなし。

朝食後九時に出発。朝食では抜け目なしおみやげのP・Rだ。ワタリガニの冷凍物が一箱一千百円、伊勢エビが同じ二千五百円。ワタリガニはみそ汁に入っておりつい買わされてしまった。商売熱心というべきか。商売上手というべきか、商売上手といえれば朝七時から朝市が開かれ賑やかだった。客の方もホテルで朝市とはビックリしただろうか結構買ひ込んでいた。朝の二回のセンスを生かすなんて心憎い気もするがあの手、この手で従業員全員が一所懸命売りまくる姿には何か気迫めいたものを感じた。各部屋係りの女中総出の見送りを受けて一路松崎へとバスはひた走った。

この日の最初の中継地は松崎温泉の長八記念館である。江戸末期の文化十二年この地で生れた入江長八が記念館となっている浄感寺で育ち後に左官として芸術的作品を残した展示場である。漆喰細工の「飛天」「鶴」「望富岳於絵伊豆之奈島図」彫刻の「八方にらみの龍」などすばらしいものばかりだ。現代のような明りのない時代に、それを生かして製作した欄間の「飛天」は実に見事であった。

長八記念館を後に下田から阿津を回り踊子ラ

インに向かう。下田で二人が下車した。天城越えでは小説「伊豆の踊り子」を偲び乍ら走った。浄連の瀧を見学のと昼食を摂る。瀧の見学者は日曜日と重なって一杯である。「これでは常連の客だね」といつて笑いが起る。昼食後は寝るに限る。箱根から小田原にでて、東名―首都高から熊谷印刷前と二日間の楽しい旅を終えた。(近藤記)

湊地区懇親旅行記

湊地区恒例の行事である秋の懇親旅行を、今年十月二十二・二十三日の両日に行なった。

最近、車中一泊等利用して、遠隔地の旅行が多かったので、たまには近い処にと言うことで西伊豆土肥温泉に行くことに決めて、デラックスなサロンバスを用意した。

当日八時三十分定刻に、参加者二十四名を乗せたバスは京橋をあとにして一路目的地に向かう。

秋晴れの旅行日和に恵まれ、コンパニオン添乗のサロンバスは快適に首都高速から東名高速と走って行く。発車直後から幹事が用意した酒肴を広げて車中宴会のはじまりだ。夜の宴会までに出て来た上ってしまうのではないかと心配になる。車は沼津インターから沼津を経て三島、湯ヶ島と昼食、休憩を取りながら進んで行く、途中湯ヶ島の明徳寺と言う小さなお寺を参拝する。このお寺は、全国諸々に見受けられる男女のシンボルを祀ってあるお寺で、安産祈願、子孫繁

栄のための往時の人々が進行したことを思わせる。明徳寺をあとに一時間程で目的地の土肥温泉の牧水荘土肥館に到着する。時刻は午後三時三〇分、宴会までには時間があるので、ちょっと旅館の紹介といきましょう。

この土肥館は百数十年の歴史があり、とりわけ明治末期から大正時代に自然主義歌人として一時代を画した若山牧水が数多く投宿し、特に先代（第三代）の館主と親しく交際した旅館です。牧水荘と名付けたのもそのような由来から



“花と潮騒の郷”

で、館内には至る所に牧水の色紙や掛軸が飾られております。牧水は明治十八年に宮崎県に生まれ、昭和三年に四十四歳の若さで沼津で永眠していますが、大正七年から毎年、年始をこの土肥館で過ごし、生涯の間に百余泊、延べ百数十首の詩歌や随筆を遺しております。

閑話休題、それぞれゆつくりと湯に身体を沈め旅塵を落とし、夕暮れと共に宴会に入る。

地区長の松川さんの挨拶のあと乾杯、型どおりのセレモニーは早々に打切り綺麗どころ？をばらせて大名気分の宴会がはじまる、普段は近くにいても、なかなかゆつくり話しをするひまはないもので、旅行の宴会程楽しいものはない、西伊豆の魚の美味さは定評があるが、目の前の豪華な料理に舌鼓を打ちながら酒量も上がっていく。牧水の歌に「しらたまの歯にしみとほる秋の夜の酒は静かに飲むべかりけれ」とあるが、酒は一人でやるもよし、多勢でわいわいやるもよしと言うところです。カラオケに興じ踊りに興じ、歓談に興じまたたくまにお開きの時間となる、早々と床につく人、どこぞの部屋で二次会に興ずる人、夜は深まっていった。一夜明ければ陽光春の如きで、おだやかな秋晴れである。午前九時、想い出の土肥温泉をあとに堂ヶ島海岸に向かう。堂ヶ島で湾内観光船に乗り見物、堂ヶ島の景勝は東北の松島と比べて東の松島とも言われており素晴らしい天然の美を楽しませてくれた。堂ヶ島から伊豆松崎にある長八記念館に立寄る。長八記念館の由来は、江戸末期文化十二年に当地に生まれた入江長八

と言う人が左官に弟子入りしたあと、二十三歳で江戸へ出て、絵と彫刻の技を修め、後にこれを左官の業に応用し、漆喰を以て絵を画き或は彫塑して華麗な色彩を施し、新機軸をひらいた作品を展示してある記念館です。隣接する浄感寺に長八が百五十年前に寄進した「八方にらみの龍」と天女が舞う「飛天」は圧巻です。車は帰路を急ぎ、途中白浜海岸で昼食、浄蓮の滝で散策のあと、往時と同じ東名高速、首都高速を走り予定どおり午後六時三十分出発地点の鉄砲洲公園脇に到着散解する。

牧水の泊りし宿を訪ね来て酒くみ交し詩情尋ねむ (中山記)

支部の動き

9月1日 本部支部長会 於・印刷会館

1、本部事業推進について協議事項

- ・ポストカードアンケート調査と写真業界との提携について

- ・需要開拓ニュース「虹」の集金方法について

- ・モデル就業規則による勉強会について
- ・職業能力開発事業―事業内職業能力開発計画の作成に関する助言指導実施

- ・当面の事業推進について

2、報告事項

- ・日印産連表彰について、印刷功労賞―松島義昭殿、塚田益男殿、田島一弥殿

印刷振興賞—大谷家清殿、根本豊明殿
特別賞—下谷修久殿

・構造改善事業推進について、キャラバン開催状況、経営計画立案研修会開催
・新宿プリンティングフェア、12/9
〜12/12

・全印工連、優良従業員表彰について
・「敬老の集い」当日出席長寿者107名

9月1日 東京真宏印刷(株)50周年記念祝賀会、
於…ホテルオータニ

9月9日 中央区商工課、三菱総研と中央区の
印刷業の実態調査について検討 於…支部
室、大竹支部長、荒木副支部長出席

9月14日 本部「敬老の集い」 於…明治神宮
参集殿、京橋支部より5名出席

9月14日 (株)ミズノプリテック40周年記念祝賀
会 於…ホテルオークラ

9月16日 中央区工業文化展実行委員会 於…
中央区役所

9月30日 中央区工業振興基本計画策定の基礎
調査—業種別代表者会議 於…京橋図書館
10月7日 部長・監査・地区長会 於…支部室

1、本部事業推進について協議事項

・ニューコンピュータの普及啓蒙について
・新春のつどいの可否について

・構改63年度実施状況、64年度事業者台
帳の実施について、調査票提出11/未
・用紙価格問題の推移について

・「印刷交流ガイド」作成原稿の回収
・第37回従業員表彰について

理事長表彰—399名、東京都感謝状141名
・当面の事業推進について

2、報告事項

・ポストカード見本帳の領布状況

・経営計画立案研修会について、第1回
—63名、第2回—93名

・年賀状印刷料金について

・第11回有機溶剤作業主任者講習結果、
9/21〜9/22、154名受講

・「消費税」の新設に関する日印産連の
要望書について

3、中央区工業文化展開催について

・協賛広告申込社数、京橋支部57社
関連15社20万円

・開会式招待者、本部役員7名、支部顧
問・相談役・参与22名、印刷新聞1名

・学童へのみやげ品—定規・双六(日本
精版印刷(株)、朝日新聞社提供)

・開催中の当番について、各地区割当

4、当面する支部事業について

・幹事会の開催について、12月8日

・新年臨時総会について、1/28日〜1
/29 於…熱海伊豆山、水葉亭

・退任役員への感謝状、記念品の贈呈
・その他、支部報次回発行京橋・銀座地
区担当12月号

10月12日 中央区工業文化展実行委員会 於…
中央区役所、実行委員他出席

10月13日 中央厚生事業協組20周年記念式典、
於…八重洲富士屋ホテル、各理事他出席

10月14日 京青会主催講演会、「日本の遠景」
講師・佐々木慎一氏(本文参照)

10月20日〜23日 中央区工業文化展開催 於…
月島社会教育会館(本文参照)

11月4日 本部支部長会 於…印刷会館

1、本部事業推進について協議事項

・「新春のつどい」について—中止

・永年勤続従業員表彰状等—各社へ直送
・構改計画調査、事業者台帳の参加事業
の確認について

・「Xデー」対策について

・改元の場合に伴う混乱防止対策
・緊急越年資金の取扱い—450万、1年
担保4.6%、6,000万円、4.4%

・年賀状に関する件
・年賀ポスター

・当面の事業推進について
・能力開発計画立案の助言、相談事業
・ニューコンピュータ発表会、11/11〜
11/12

・組合情報ネットワーク化事業
・64年度総代会について、5/24

・環境関係見学会、11/8、埋立地海
上より見学

・組織委員会講演会、11/8
・研修会予定

・東京の印刷表紙の変更

2、報告事項

・オフセット技能検定結果について
・技能検定協力会社への感謝状贈呈11/

17の理事会

- 全印工連ソフト強化通信教育講座
- 郵便番号記入枠の記載方法の改正
- 支部新年会について

11月9日 京青会研修「事業継承について」

於…三井銀行京橋支店

11月15日 京橋電気安全協会理事会…於…京橋

消防署

11月17日 本部理事会、於…全印健保

11月21日 中央区工業文化実行委員会反省会

於…入船島福、各団体実行委他出席

11月29日 京橋支部新富地区会、於…阿波ヤ

支部員の異動

脱退組合員（63年11月現在）

●日中企画(株)（築地地区）平尾義親殿

●(有)新興社東京工場（湊地区）深沢太助殿（準

組合員）

加入組合員（63年12月）

●京一商事(株)、渡辺久殿、（京橋地区）、中央区

京橋1-14-6、電話561-6027、が加入。

●(株)フヨ、横倉守殿、（湊地区）中央区湊3

1-3-1、電話552-1575、江東支部より転入。

所在地移転

●白銀印刷(株)（築地地区）は事務所が新富1-

13-19、電話297-4001へ移転しました。

●今野平版(株)東京営業所（築地地区）は築地2

1-7-12へ移転しました。

●先川印刷(株)（八丁堀地区）は日本橋茅場町2

1-1-7、電話664-0831へ移転しました。

社名変更

●(株)水野写真工芸印刷は、ミズノプリテック(株)と社名が変わりました。

●(有)昭和印刷（新川地区）は、新社名を(株)谷嶋と変更しました。

慶 事

●(株)進和堂印刷所（湊地区）鈴木和男殿長男御結婚（4月）

●(株)西田プリント（八丁堀地区）西田茂夫殿長女御結婚（3月）

●中山印刷所（月島地区）中山広一殿長女御結婚（11月）

●大城印刷(株)（新川地区）大城輝彦殿次男御結婚（11月）

お悔み申し上げます

▼湊地区、大誠印刷(株)社長御母堂、大川ふよ殿が御逝去されました（6月）

▼築地地区、福田印刷工業(株)東京支店、社長御尊父福田三八一殿が御逝去されました（7月）

▼入船地区、三秀印刷工業(有)、社長小林秀男殿が御逝去されました（9月）

▼銀座地区、(有)小西商店印刷所、社長御尊父小西大介殿が御逝去されました（10月）

▼入船地区、亜土印刷(株)、社長青木政一殿が御逝去されました（11月）

▼湊地区、島田アサヒ印刷(株)社長、嶋田忠三殿が御逝去されました（11月）

▼入船地区、(株)光雄社印刷所会長御令室山内雪子殿が御逝去されました（11月）

編集後記

今年もあと僅かとなり気忙しい時期ですが、Xデー何やらという雰囲気の中で、皆様方もいろいろと苦慮されている事と存じます。

さて「京橋の印刷」も各地区担当になつて第二号を京橋、銀座地区で編集の当番ですが、今回は京青会の松岡会長が銀座地区にいて、京橋の小宮山地区長も京青会幹事という訳で、京青会10月度講演会の内容を特集で御紹介する事になりました。京橋・銀座地区の様子は地区だよりに掲載させて頂きました。又築地・湊地区の旅日記も寄稿戴きまして有難うございました。

10月に行われた中央区工業文化展の開催についても詳しく内容を掲載しました。今年度の支部事業のメインイベントとして、皆様のご協力のお蔭で無事に終了した事を御礼申し上げます。

最近の自粛ムードで印刷業界にも、しわ寄せが及びそうな気配もありますが、折からの用紙の値上げ模様もからんで、来年も印刷需要の減退につながるなければ良いのですが、已年に夢を託す事になりそうです。（京橋・銀座地区長）